

イリノイ大学での秋学期が終了し、冬休みに入りました。UIUCの期末テスト期間は2週間程で、テスト期間中、現地の学生たちは朝から晩までテスト勉強に励んでいる様子でした。授業で友人たちと顔を合わせるたびに「調子はどう?」「テストはあといくつだ?」「昨晚は寝てない」なんていう遣り取りを繰り返す毎日にデジャブを感じながらもテストを乗り越え、無事に冬休みを迎えることができホッと胸を撫で下ろしているところです。

近況

秋学期の成績は14単位中11単位を取得する事ができました。それほど悪くないスコアだったので、少しばかり驚きました。きちんと課題をこなし、テストの点数も平均ほど取る事ができればB-は期待できるのだと感じました。若干、インストラクターの裁量があつての事かもしれませんが、秋学期始めの頃は、毎日毎週課される課題を消化するのに手間取ってしまい、時間を有効に活用する事ができなかつたと感じています。工学の科目は3科目履修していたのですが、実際は、その内1科目は課題を消化するための体力的、時間的な余裕が無く上手くこなす事ができませんでした。しかし、その忙しさに次第に体がついていくようになり、学期中盤に差し掛かると生活に余裕がでてくるようになりました。最終的には何か物足りなさを感じる日々だったので、来学期は課題の消化とそれに掛ける時間、その兼ね合わせをしっかりと考えながら取り組みたいと考えています。

また、ここ数ヶ月間、キャンパス周辺での犯罪が増えている様子で、しばしば、警察からCRIME-ALERTがメールで流れてきます。犯罪の内容はというと、恐喝や強奪といった金品を狙った犯行が多いです。しかし、近頃報告されている事例によれば、突然暴行を加えられ病院へ行く羽目になった学生もいるらしく、夜中に1人はおろか2人でも出歩くことは非常に危険な状況にあります。キャンパスが位置するシャンペーン市はとも田舎なので、日が落ちはじめるとメインストリートでさえ人の気配が少なくなり、若干不気味な印象を受けます。かえってボストンやニューヨークの方が安全な印象を受けました。しかし、これはシャンペーン市のごく一部の人が悪事を働いているだけであり、アメリカ国外の方が多く住む町だけあって、シャンペーン市に住む多くの人たちは他人への気遣いができ、優しい人が多いようです。決して上記に示したような悪い事ばかりではありません。

Thank you と伝えられる姿勢

アメリカの生活において挨拶の仕方であったり、ちょっとした世間話をできる会話能力であったりというのはとても重要なことです。見知らぬ人と世間話をする機会というのは思った程無いものですが、私がアメリカでの生活において心掛けていることは、小さなことでもお世話になった相手に対して Thank you と言うことを欠かさないようにしています。これは、当たり前のことですが人がお互いに毎日を気持ちよく生活するために必要不可欠なことだと思います。例えば、愛想の悪いコンビニのレジの店員に対して、会計の仕事1つに対しても Thank you と言うことができるかどうかで、人との関わり方、人々の印象というのは変わってくると思います。なぜならば、Thank you の一言で私の無愛想な人々の態度に対する印象は好ましい方向へ変わったからです。

私が日本に居た頃、アメリカに住む人たちは無愛想であるという意見をよく耳にしました。実際、日本と比較してコンビニエンスストアやスーパーの店員は無愛想だと思います。商品の値段の合計金額とバッグはいるかどうか、店員が発する言葉がこの二つもしくは前者だけというケースは珍しくありません。私が初めてアメリカのコンビニエンスストアを利用したとき、日本で耳にした通り無愛想であると感じたのは言うまでもありません。しかし、愛想の無い店員に対しても感謝の意を述べることで、You're welcome, Have a nice day と穏やかな声で返事を返してくれる方がいれば、Peace とフランクに返してくれる店員もいます。そういった経緯から彼らは表面的には無愛想ではあるけれども、Thank you の一言で彼らを纏う雰囲気は内心から変わり、世間話であったり、お礼

であったり、コミュニケーションをとれる場は人の心を豊かにすると改めて思いました。

アメリカからみると、日本人の他人に対する愛想の良さは素晴らしいことであり、誇れることだと思います。日本へ滞在したことのあるアメリカや台湾の子と日本の印象について少し話をしたとき、「日本は愛想が良くて親切で好き」といったことを言っていました。日本において、特に日本人の愛想のよさを感じる事ができる場所といえばコンビニエンスストアではないかと思います。毎回、コンビニエンスストアを訪れる度に店員の元気のよさであったり、表情であったり、接客の姿勢は素晴らしいと感じさせられます。特に、接客の相手が外国の方であった場合の日本人の接客には目を見張るところがあり、人を思い遣る気持ちを存分に発揮する印象があります。そういった点で外国からみた日本人の印象はとても良いのだと思います。

しかし、そういった店員の中には仕事を楽しむことができていない人がおり、その人の愛想のよさというのは表面だけであって、内心は面倒くさいとか疲れたと思いながら仕事に勤めている人は少なくないと思います。私の場合、そういった考えがあるので日本のレジの愛想のよさというのはたまたま居心地が悪く感じる場合があります。日本の場合、アメリカのようにレジで店員と顧客が挨拶を交わすといった風習が無い地域が殆どだと思うので、店員からすれば一方的に顧客に接客用の態度で愛想よく振舞うだけで、そこから生まれるコミュニケーションがなく、そういった姿勢が次第にストレスに変わっていくことがあるのではないかと思います。私自身、カフェでアルバイトをした経験から、顧客とのコミュニケーションがないと非常に退屈で自然と軽薄な接客になることがあったと自覚しています。逆に、顧客から有難うお礼を言われたり、私が淹れたコーヒーが美味しいと伝えられたりすると心から嬉しく思い、接客の姿勢が自然に心からサービスをしようという気持ちになったこともあります。また、そういったコミュニケーションがある場というのは、人々の心を豊かにすると思うので良いことだと思います。日本においても、店員の接客に対して有難うと伝えられるとお互いの気持ちが和らぐことができ良いのではないかと思います。日本では、そういった姿勢は変わり者だと思われそうで躊躇してしまいそうですが、なにぶん、ありがとうございますは Thank you に比較して言い難い気がします。私だけかもしれませんが。

以上で12月分の報告書とさせていただきます。